

○埼玉大学シラバス作成ガイドライン

令和 5 年 12 月 19 日

埼玉大学教育推進室

1. シラバスの重要性

大学として教育の質の向上を図るため、シラバスの役割や内容は非常に重要となります。

多様性を重視しつつも「学修者が主体的に学びと探求を進められるような場（及びそのために必要な準備作業を積み重ねる場）」を作っていくことが、教育組織としての大学の役割です。もちろんそのような場とは、第一義的には実際の学びの空間そのものですし、各授業担当の先生方もそのための工夫をこれまでも積み重ねていらっしゃいます。シラバスは「個々の学びの場が何を目指してどのように運営され、どのような基準と方法で評価を行うのかを、学修者に伝える媒体」という役割を果たす必要があります。

大学設置基準第二十五条の二

（成績評価基準等の明示等）

第二十五条の二 大学は、学生に対して、授業の方法及び内容並びに一年間の授業の計画をあらかじめ明示するものとする。

2 大学は、学修の成果に係る評価及び卒業の認定に当たっては、客観性及び厳格性を確保するため、学生に対してその基準をあらかじめ明示するとともに、当該基準にしたがって適切に行うものとする。

大学院設置基準第十四条の二

（成績評価基準等の明示等）

第十四条の二 大学院は、学生に対して、授業及び研究指導の方法及び内容並びに一年間の授業及び研究指導の計画をあらかじめ明示するものとする。

2 大学院は、学修の成果及び学位論文に係る評価並びに修了の認定に当たっては、客観性及び厳格性を確保するため、学生に対してその基準をあらかじめ明示するとともに、当該基準にしたがって適切に行うものとする。

専門職大学院設置基準第十条

（成績評価基準等の明示等）

第十条 専門職大学院は、学生に対して、授業の方法及び内容、一年間の授業の計画を

らかじめ明示するものとする。

- 2 専門職大学院は、学修の成果に係る評価及び修了の認定に当たっては、客観性及び厳格性を確保するため、学生に対してその基準をあらかじめ明示するとともに、当該基準にしたがって適切に行うものとする。

2. シラバスの作成スケジュール

シラバスは、以下のスケジュールを目安に作成します。

- | | |
|-------|---------------------------|
| 2月上旬 | 授業担当教員にシラバス作成依頼（教育機構） |
| 2月末 | シラバス登録期限（授業担当教員） |
| 3月上旬 | シラバスの組織的な点検（各学部・研究科、教育機構） |
| 3月中旬 | シラバスの修正（授業担当教員） |
| 3月最終週 | シラバスの公開 |

3. シラバス作成の注意事項

シラバス作成にあたっては、前年度のデータをコピーして使用する場合であっても、必ず本資料を参考に内容の確認を行ってください。

◎基本的な注意事項

作成にあたっては、まず何も記入されていない欄を作らないようお願いいたします。該当する内容がない場合には、「なし」「ありません」等の文言を記入してください。

シラバスの項目はすべてが重要なものではありませんが、特に重要である項目には、その旨を示してあります。項目の趣旨を確認し、適切な記入をお願いします。

また、シラバス作成後、適切に記入しているか必ず確認してください。

◎項目毎の注意事項

(1) 科目の基本情報

科目の基本情報については、必要な事項を所属の学部等支援室または教育企画課で入力しますので先生方による入力不要です。ただし、記入の内容に誤りがある場合は、速やかに各担当へ連絡いただくようお願いします。

科目の基本情報とは、シラバス上部に表示される【科目名、ナンバリング、科目分野、担当教員、対象学生、対象年次、単位数、必修・指定選択・選択の別、曜日時限、教室、科目群、講義番号】を指します。

(2) 科目の詳細事項

① クラス指定

所属学科や学年、成績等により履修者が指定されている授業の場合は、その条件を記入してください。

② 他との関連（関連項目）

この授業科目の内容やカリキュラムの点で関連の深い他の授業科目名を記入してください。なお、この授業科目の履修の前提となる授業科目がある場合は、次の「履修条件」欄に記入してください。

③ 履修条件（授業に必要な既修得科目または前提知識）【特に重要】

この授業科目を履修するための前提として必要な知識・能力・経験、履修に必要なツールを示すための欄です。それらが「必須」なのか「身につけていることが望ましい」なのかという点も明記してください。

【記入例】

- ・「情報基礎」が既修得であることが必須である。
- ・フランス語の初級文法の知識が必須である。
- ・プログラミングの基礎知識を持っていることが望ましい。

④ テーマ・副題

この授業科目のテーマ（タイトルやサブタイトル）を簡潔に記入するための欄です。

【記入例】

- ・ヨーロッパの近代絵画を理解する — 印象派を中心に —
- ・微分方程式の基礎理論

⑤ 授業科目の到達目標【特に重要】

この授業科目が学修者にとって何を学ぶ場であるのか、この授業科目を履修したときに得られる知識や修得が期待できる能力がどのようなものであるかを示す非常に重要な欄です。

到達目標の達成度に応じて成績評価を行うことになるので、成績評価を念頭において設定する必要があります。

この欄は、学修者を主語とした文言や文章での記入をお願いいたします。ただし、知識の伝授を主眼とする授業などでは、必ずしも「～できるようになる」という文型でなくても構いません。授業内容に応じて「～を理解する」といった言い回しを使うことも可能です。

【記入例（知識や技能）】

- ・〇〇の基礎的な知識を身につける。
- ・〇〇の基礎概念を理解する。
- ・フランス語の初級会話ができるようになる。
- ・実習を通じて〇〇の操作方法を身につける。
- ・適切な発表資料を作成できる。
- ・実験の目的・手順・結果などを報告書としてまとめることができる。

【記入例（実習等への参加のあり方）】

- ・実験が失敗した場合に、その原因について考察できる。
- ・安全に配慮して実験ができる。
- ・〇〇に関する興味・関心をもって積極的に討論に参加できる。
- ・自分の意見を整理し、グループで議論できる。
- ・他者の発表内容に対して、批判的（クリティカル）な思考をもってコメントできる。
- ・論文の作成を通じて、研究に対する応用・発展的な思考を身につける。

⑥ 『ディプロマ・ポリシー』を含む学部・研究科・学科等の学修・教育目標との関連【特に重要】

令和4年度から項目名を変更し、『ディプロマ・ポリシー』を含む学部等の教育目標との関連を示すものであることを明確にしました。

本学で定めているこれらの学修・教育目標と、この授業科目の内容がどのような関連にあるかを記入してください。授業科目の内容に応じて複数の項目と関連する場合などは複数の事項を併記いただくことも可能です。

「シラバスの『ディプロマ・ポリシー』を含む学部・研究科・学科等の学修・教育目標との関連」欄記入のための資料」を確認してください。

⑦ 授業キーワード

学生が授業の概要を理解するのに役立つキーワードとして、授業で扱う主なトピックスを記入してください。

⑧ 授業の内容

学生が授業の流れと学びの概要を理解できるようにわかりやすく記入してください。

なお、⑦の授業キーワードが授業内容とどう関連するかなどをこの欄に記入してもよいでしょう。

⑨ 授業の方法【特に重要】

授業の方法として、授業をどのような方法（講義、演習、実験、実習、実技等）で実施するか明記してください。なお、特段の事情により遠隔授業が認められている授業については、授業実施方式（オンデマンド、リアルタイム、ハイフレックス）を明記してください。

【記入例】

- ・演習形式の授業です。
- ・講義形式の授業で、遠隔授業（リアルタイム）として実施します。

⑩ 事前準備学修・事後展開学修【特に重要】

事前準備学修・事後展開学修の欄は、教育の質保証の観点からもとても重要な項目です。定期的実施する通常の授業の場合は下記の i 及び ii を明記してください。なお、集中講義や卒業研究など教育活動の形態が通常授業と大きく異なる科目については、iii も参考にしてください。また、前年度のシラバスからコピーする場合は、当該年度の内容に沿っているか必ずご確認ください。

シラバス入力期限後に空欄となっている授業科目には例文を自動記入しますのでご了承ください。

i. 学修時間について

学修時間については、授業の回数・単位数に応じて、ご担当の授業に該当する内容を下の記入例を参考にして記入してください。[○回の授業で○単位の科目]の部分は記入不要です。

【記入例】

- A)[15 回の授業で2単位の科目]授業1回あたり合計4時間の事前準備・事後展開学修が目安となります。
- B)[15 回の授業で1単位の科目]授業1回あたり合計1時間の事前準備・事後展開学修が目安となります。
- C)[8回の授業で1単位の科目（AL 科目など）]授業1回あたり合計4時間の事前準備・事後展開学修が目安となります。

記入例の文言は、「大学設置基準」及び「埼玉大学単位修得の認定に関する規則」における、1単位に必要な時間数についての定めに対応したものです（下表参照）。ただし、先生ご自身で授業内容に合った学修時間を設定される場合は、上記の内容を変更されてもかまいません。

授業の方法	授業時間	事前準備・事後展開学修時間	計
講義及び演習	15 時間	30 時間	45 時間
	30 時間	15 時間	

実験、実習及び 実技	30 時間	15 時間	
	45 時間	0 時間	

ii. 具体的な学修内容について

この欄には、具体的な事前準備学修・事後展開学修の内容も記入する必要があります。自動入力されているのは学修時間についての目安のみですので、学修内容についても記入をお願いします。

【記入例】

授業 1 回あたり合計 4 時間の事前準備・事後展開学修が目安となります。
 なお、事前学修においては指定された範囲の資料をよく読み、疑問点をピックアップしておいてください（1 時間程度）。また、事後学修においては、授業内容の重要ポイントを整理し、指定された課題に取り組んでください（3 時間程度）。

iii. 集中講義や卒業研究などの科目について

集中講義や卒業研究など教育活動の形態が通常授業と大きく異なる科目（定期的な授業実施がない科目）の場合には、学修内容の記入をメインとしてください。

学修時間に関しては、実情に即した目安時間を示す（集中講義の場合）か、やや抽象的な表現にとどめる（卒業研究などの場合）のいずれかを検討ください。

【記入例】

(1) 集中講義の場合

- ・事後展開学修としては、授業内容を振り返り、重要なポイントを自分の中で整理しておくこと。また、各回の配布資料の最後に掲載した「次回のためのクエスチョン」の答えを考えておくこと。目安となる学修時間は各回 60 分程度。
- ・事前配布された資料は、授業前に読んで概要を理解しておくこと。授業後は授業内容の理解を深めるために、資料の最後に掲載した例題を自分で解いてみること。目安となる学修時間は各回 90 分程度。
- ・授業期間が短いので、事前に〇〇（＝授業で扱うテーマ）について調べておくことが望ましい。授業後は学んだ内容を整理し、分からない点があったら WebClass のアンケートで知らせてほしい。目安となる学修時間は各回 90 分程度。

※学修時間は、授業の実態に即して決めていただいて構いません。上記の 60 分や 90 分はあくまでもサンプルです。

(2) 卒業研究など研究指導がメインとなる科目の場合

- ・情報収集、論文や資料の精読、データ整理、報告・発表資料の作成、実験内容や時間の記録などを自発的・計画的に行うこと。
- ・担当教員との相談を重ねながら中間発表会に向けての準備を進め、発表会後はそこで指摘された問題点を整理したうえで、研究を深めていくこと。

・【定期的なミーティング等がある場合】ミーティングではあくまでも進行状況の報告とそれに対する教員からの助言・指導が主となる。そのため文献の読み込み、分析、執筆等の準備を事前にしっかり行い、事後にはミーティングでの助言・指導を踏まえて改善を図ること。

⑪ 授業展開（スケジュール）【特に重要】

この欄では、学修の順序や流れを明示することが重要です。

授業科目の到達目標に対応した授業のスケジュールを立てたうえで、「授業の内容」欄の記入を細分化し、学生が授業の流れと学修内容を理解できるよう、開講すべき授業の回数と整合するように各週（回）の授業内容を記入してください。（例えば、15回開講の講義なのに13回分の記入しかないといふと休講が2回あるかのような誤解を与えます。）

数回に渡り同じテーマが続くような場合でも、末尾の数字を変更するだけでなく可能な限り具体的な概要やキーワードを盛り込んでください。

なお、学生の理解度によって授業展開の流動性がかなり高くなることが予想される場合は、前年度の授業展開を例として示すという方法も可能です。このような場合は、その旨も忘れずに記入してください。

この欄に各週（回）の授業計画を具体的に記入することで、学生の事前準備学修・事後展開学修の有効性向上も見込まれます。

⑫ 授業の詳細

この欄には、WebClass のリンクが自動で挿入されるため記入は不要です。

⑬ 成績評価の方法と観点【特に重要】

授業科目の到達目標に達しているかをどのような方法・手段（期末試験、中間試験、レポート、コメントペーパー、討論等）・観点で評価するのかを具体的に記入してください。複数の方法・手段を組み合わせる場合には、それぞれの割合を明記してください。

なお、評価の観点については、学生が学修の目安とできるようにループリック等で示すことが望ましいです。

【記入例】

- ・期末試験 50%、レポート 30%、WebClass の小テスト 20% で評価する。
- ・期末試験 50%、2 回のレポート 25% ずつで評価する。ただし、期末試験の得点率が 4 割未満の場合は不可とする。

出席数それ自体（出席の有無）を点数化して成績評価に用いることはできません。

【認められない記入の例】

- × 1 回の出席を 2 点として期末試験の得点に加点する。
- × 期末試験 50%、レポート 20%、出席 30% で評価する。

ただし、出席を成績評価の前提条件とする場合はその旨を明記してください。

【記入例】

- ・ 授業全体の 1/3 以上欠席した場合は成績評価の対象としない。
- ・ 授業全体の 2/3 以上の出席がないと、期末試験の受験を認めない。
- ・ 4 回以上欠席した場合は成績評価の対象としない。

また、授業における学修状況や参加態度を評価することは可能です。その場合は「出席」ではなく「授業への参加態度」といった記入にしてください。「普段からの実験器具の管理」等、平常点でしかとらえられない評価観点がある場合にも明記してください。

⑭ 成績評価基準【特に重要】【自動記入のため入力は不要】

成績評価基準は、埼玉大学単位修得の認定に関する規則第 4 条の規定に基づき実施することになるため、下記の文章を自動記入します。（先生方のご記入は不要です）。「成績評価方法と観点」の欄に記入すべき内容をこちらの欄に記入されていますと上書きされてしまいますので、移動をお願いいたします。

【自動記入内容】

埼玉大学単位修得の認定に関する規則に基づき、履修者が授業の到達目標をどれだけ達成したかに応じて以下の通り評価する。

「到達目標を超え、全般的に特に秀でている」 =GP:4=S

「到達目標を超えており、部分的に秀でている」 =GP:3.5=A+

「到達目標を超えている」 =GP:3=A

「到達目標に十分達しており、部分的に秀でている」 =GP:2.5=B+

「到達目標に十分達している」 =GP:2=B

「到達目標に最低限達しており、部分的に B 以上の水準にある」 =GP:1.5=C+

「到達目標に最低限達している」 =GP:1=C

「到達目標に達していない」 =GP:0=D

「到達目標の達成度を測る材料がない」 =GP:0=F

⑮ テキスト及び参考図書

この授業で教科書として使用するものは「テキスト」欄に、それ以外に参考となる文献については「参考文献」欄に記入してください。記入する項目は、ISBN、

書名、著者名、出版社、出版年です。備考欄に入手先や価格等の情報を記入することも可能です。

なお、テキストを使用しない場合は、必ずその旨（「テキストは使用しません」等）を明記してください。

⑯ 学生へのメッセージ

授業の魅力などを伝え、学生の履修意欲向上につながるようなポジティブなメッセージを記入してください。あわせて履修者に求める姿勢や態度、履修条件に関する補足情報（遅刻・早退・欠席の扱い等）も必要に応じて記入してください。

⑰ 人数制限

履修人数に制限のある授業は、上限となる人数を必ず記入してください。特に制限を設けていない場合は「なし」と記入してください。

(3) 担当教員連絡先等

⑱ 連絡先（電話番号、メールアドレス、ホームページ、その他）

連絡先として公開可能なものをひとつ以上記入いただくようお願いいたします。どうしてもシラバスに記入しがたい事情がある場合は、授業中に別途連絡方法を指示する、等、連絡を取る方法を示してください。

【記入例：電話番号】

048- 858- XXXX

※原則として個人の電話番号などの個人情報は記入せずに、研究室のダイヤルイン番号など、公表可能な連絡先を記入してください。

【記入例：メールアドレス】

XXXXXXXXXX@mail.saitama-u.ac.jp

アットマークを半角の"@"に変更して送信してください。

※E-mail アドレスは、迷惑メール対策を考慮にいれ、@（アットマーク）を全角にしたり別の文字に置き換えたりするなど、そのままではメールが送信できないような工夫をした上で記入してください。

【記入例：ホームページ】

<https://XXXX.saitama-u.ac.jp>（埼玉大学〇〇学科 HP）

HP にアクセスし問い合わせフォームからご連絡ください。

※連絡先として学科の HP 等を使用する場合は、どこからどのように連絡すればよいか分かるように明記してください。

⑱ **オフィスアワー【特に重要】**

オフィスアワーは、学生が学修を進めるうえでの授業や学業に関する悩み、学生生活や進路に関する悩みについて相談をするための機会として非常に重要なものになります。普段から常時こうした相談を受け付けている先生方が多いかと思いますが、学生が教員への質問や相談がしやすくなるように、必ず相談を受け付けられる時間帯（授業の休み時間を含めてください）、場所を明記するようにしてください。

なお、オフィスアワーは、教育の質保証のうち履修指導、学修指導の観点からも必要とされるものです。シラバスへの記入は、適切な支援が行われている証拠になりますので必ず記入してください。

【記入例：専任教員の場合】

授業期間中の毎週○曜日 11:30～12:30

教養学部棟 3階 3 X X

上記時間帯はいつ来ていただいても構いませんが、臨時の会議や出張などで不在にする場合がありますので、なるべく事前に上記に記入のメールアドレスへ連絡をお願いします。なお、希望に応じて Zoom で対応することも可能です。

【記入例：非常勤講師の場合】

授業期間中の毎週○曜日 3限の終了後 30分ほど時間を取るようになります。その場で声をかけてください。

もしくは、連絡先メールアドレスに連絡いただければ適宜対応します。

⑳ **関連ホームページ**

研究室等のホームページがある場合はこちらに記入してください。

(4) **その他**

㉑ **その他・備考**

上記の項目に当てはまらない授業科目や担当される先生に関連することがあれば適宜記入してください。特に記述すべきことがない場合は空欄で構いません。

◎**人文社会科学研究科の「演習」、「特別演習」、理工学研究科の「特別研究」、「特別演習」のシラバス作成に関する注意事項【特に重要】**

国立大学法人埼玉大学大学院学則第 22 条の 2 では、「人文社会科学研究科及び理工学研究科の教育は、授業科目の授業及び研究指導によって行うものとする。」とされ、授業科目の授業と研究指導（学位論文の作成等に対する指導）はそれぞれ行うものとされています。

人文社会科学研究科で開設される「演習」及び「特別演習」、理工学研究科で開設され

る「特別研究」及び「特別演習」は、研究指導そのものではなく、研究遂行の方法論、分析手法、実験手法を学ぶことや、論文作成に繋がる文章力のトレーニングを行うための授業科目です。

シラバスの作成に当たっては、研究指導そのものであるとの誤解を与えないよう十分注意してください。

これらの科目のシラバス作成に関して、特に注意いただきたい点は以下のとおりです。

- (1) 例年、【⑩ 授業展開（スケジュール）】の記載がないもの、記載が不足しているものが散見されます。開講すべき授業の回数と整合するように各週（回）の授業内容を記入してください。
- (2) 以下に、研究指導そのものであると誤解を与えかねない不適切な記載例を示しますので、このような記載をしないように注意してください。

シラバス項目名	不適切な記載の例
【⑤ 授業科目の到達目標】	修士論文の完成
	実験計画を立案し、実験を遂行し、その結果に基づいて研究を進展させる。
	〇〇学の論文（修士論文）を作成する。
【⑦ 授業キーワード】	修士論文作成
	博士論文作成
	研究指導
【⑧ 授業の内容】	研究課題を立案し、その課題の解決に向けて実験を遂行する。
	指導教員・副指導教員の指導の下で、検討、討論または実習等を行い、研究終了後、報告書を提出し報告会で口頭報告する。
	論文の構成を検討する。
	論文を執筆する。
	学生自身の研究テーマについて発表を行う。
【⑨ 授業の方法】	研究計画にもとづき実験を遂行し、指導教員とディスカッションしながら結果を考察し、研究を進展させる。
【⑩ 授業展開（スケジュール）】	研究計画を作成する。
	研究成果の報告
	研究科全体での中間報告
	研究の進捗についてディスカッションする。

【(2)⑥参考】

シラバスの「『ディプロマ・ポリシー』を含む学部・研究科・学科等の学修・教育目標との関連」欄記入のための資料

I. 教養・スキル・リテラシー科目

担当する授業科目の 카테고리に 応じて以下の文言を参考に記入してください。本資料には参考として「i. 埼玉大学全体のディプロマ・ポリシー」、「ii. 各 部局のディプロマ・ポリシーから抽出した一般性のある目標」も示しましたので、適宜これらの内容を加えていただくことも可能です。

人文学、社会科学、自然科学系の授業科目の記入例

全学及び各学部のディプロマ・ポリシーで定めている「専門性のある幅広い基本的知識（特に人文学・社会科学・自然科学に関する幅広い基本的知識）を修得する」という目的に対応する科目である。

※下線部については、担当科目分野に応じていずれか一つを選択してください。

インターンシップ、PBL 系の授業科目、AL 科目の記入例

全学及び各学部のディプロマ・ポリシーで定めている「知識を活用できる汎用的な能力を修得する」という目的に対応する科目である。

外国語科目の記入例

全学及び各学部のディプロマ・ポリシーで定めている「グローバルな視野を持ち、内外の人々とのコミュニケーションを活発に行い、多様な文化や価値観を理解する」という目的に対応する科目である。

i. 埼玉大学全体のディプロマ・ポリシー

埼玉大学は、首都圏の一角を構成する埼玉県下唯一の国立大学という特性を活かし、地域社会のニーズに応じた人材育成を行うと同時に、多様なグローバル人材を育成することによって国際社会に貢献することを目指しています。

この目標を達成するために、埼玉大学は、①専門的な深い知識の修得、②専門性のある幅広い基本的知識の修得、③知識を活用できる汎用的な能力の修得を大学全体の共通目標とし、④各学部における人材養成の目的に合致した資質の涵養に努め能力を獲得した者に、学士の学位を授与します。また、成績評価及び各学部の卒業認定は、明確

な基準のもとで厳格に行います。

ii. 各部局のディプロマ・ポリシーから抽出した一般性のある目標

- (1) 論理的、批判的思考力
- (2) 根拠に基づいた分析力（情報収集力含む）
- (3) みずからの主張や意見を形成し発信する能力
- (4) 他者との共生の基盤となる、みずからの社会的な責任の自覚
- (5) 知識・スキルを他領域に敷衍・応用する力

II. 初年次科目、専門科目

a. 教養学部

担当する授業科目のカテゴリーに応じて以下の文言を参考に記入してください。本資料には参考として「i.教養学部のカリキュラム・マップに示された教育目標(専修別)」、「ii. 教養学部のディプロマ・ポリシー」、「iii. 各部局のディプロマ・ポリシーから抽出した一般性のある目標」も示しましたので、適宜これらの内容を加えていただくことも可能です。

基礎的な科目の記入例

教養学部の教育目標1「人文社会科学系専門科目を学修するための幅広い基礎を修得する」ことを主眼とする科目である。

専門性の高い科目（講義）の記入例

教養学部の教育目標3「所属専修課程（グローバル・ガバナンス）における基本的な専門知識を修得する」ための科目である。

ヨーロッパ文化研究を地域的な視点から行うための専門的知識を修得する（ヨーロッパ・アメリカ文化専修の教育目標2）とともに国際的視野を持ち、国内外の多様な文化および価値観を理解する能力を修得する（教養学部ディプロマ・ポリシー(4)a) ための科目。

専門性の高い科目（演習・実習）の記入例

教養学部ディプロマ・ポリシー(1)a「各分野で蓄積された先行研究の成果をよく理解し、体系的で深い専門知識を修得する」および(3)「知識を活用できる汎用的な能力の修得」と関連する授業です。

※授業科目の内容に応じて下線部の記述の要否をご検討ください

卒業研究の場合の記入例

教養学部ディプロマ・ポリシー「(3) 知識を活用できる汎用的な能力の修得に関連する事柄」より、次の a～d を修得する。

- a. 幅広い視点に立って、自身で問題を設定する能力
- b. 設定した問題について情報や知識を的確に調査・収集する能力
- c. 設定した問題について多面的かつ論理的に考える能力
- d. 自らのアイデアを的確に伝える能力（語学の運用能力を含む）

i. 教養学部のカリキュラム・マップに示された教育目標(専修別)

・全専修において以下の共通表記とする。

教育目標 1

人文社会科学系専門科目を学修するための幅広い基礎を修得する。

教育目標 2

所属専修課程（グローバル・ガバナンス、現代社会、哲学歴史、ヨーロッパ・アメリカ文化、日本・アジア文化）における基本的な専門知識を修得する。

教育目標 3

所属専修課程（グローバル・ガバナンス、現代社会、哲学歴史、ヨーロッパ・アメリカ文化、日本・アジア文化）における特定の専門知識を修得する。

教育目標 4

所属専修課程（グローバル・ガバナンス、現代社会、哲学歴史、ヨーロッパ・アメリカ文化、日本・アジア文化）における専門分野の理解を深め、その知識を運用するための方法を修得する。

教育目標 5

演習や卒業論文作成を通じて、所属専修課程（グローバル・ガバナンス、現代社会、哲学歴史、ヨーロッパ・アメリカ文化、日本・アジア文化）の専門分野に関する問題設定と課題決をする能力、およびその成果を発表する能力を育む。

ii. 教養学部のディプロマ・ポリシー

教養学部では、現代の文化及び社会の諸問題に対処し得る人材になるため以下の知識、能力を身につけ、卒業要件として定めている 124 単位を修得した学生に学士(教養)の学位を授与する。

(1) 専門的な深い知識の修得に関連する事柄

所属する専修課程（グローバル・ガバナンス専修課程、現代社会専修課程、哲学歴史専修課程、ヨーロッパ・アメリカ文化専修課程、日本・アジア文化専修課程）における学修によって、次の a～d を達成している。

- a. 各分野で蓄積された先行研究の成果をよく理解し、体系的で深い専門知識を修得する。
- b. 専門分野の方法(語学を含む)に習熟する。
- c. 専門分野に関して自身で問題を設定し、それについて探求・解決する能力を身につけている。
- d. 自身の研究成果を他者に説明し議論する能力を身につけている。

(2) 専門性のある幅広い基本的知識の修得に関連する事柄

次の a,b を達成している。

- a. 人文学・社会科学・自然科学に関する幅広い基本的知識を修得する。
- b. 所属する専修課程の専門分野に関連する分野の基本的知識を修得する。

(3) 知識を活用できる汎用的な能力の修得に関連する事柄

次の a～d を修得している。

- a. 幅広い視点に立って、自身で問題を設定する能力
- b. 設定した問題について情報や知識を的確に調査・収集する能力
- c. 設定した問題について多面的かつ論理的に考える能力
- d. 自らのアイデアを的確に伝える能力（語学の運用能力を含む）

(4) 学部における人材養成の目的に合致した能力の修得に関連する事柄

次の a, b を修得している。

- a. 国際的視野を持ち、国内外の多様な文化および価値観を理解する能力
- b. 現代の文化や社会の問題にさまざまな形で取り組む能力

iii. 各部局のディプロマ・ポリシーから抽出した一般性のある目標

- (1) 論理的、批判的思考力
- (2) 根拠に基づいた分析力（情報収集力含む）
- (3) みずからの主張や意見を形成し発信する能力
- (4) 他者との共生の基盤となる、みずからの社会的な責任の自覚
- (5) 知識・スキルを他領域に敷衍・応用する力

b. 経済学部

担当する授業科目の категорияに応じて以下の文言を参考に記入してください。本資料には参考として「i.経済学部のカリキュラム・マップに示された教育目標」、「ii. 経済学部のディプロマ・ポリシー」、「iii. 各部署のディプロマ・ポリシーから抽出した一般性のある目標」も示しましたので、適宜これらの内容を加えていただくことも可能です。

基礎的な科目の記入例

社会科学系専門科目を学習するための基礎を修得するための科目である（教育目標1に対応）。

経済学部での学位授与にあたり、「情報リテラシー（情報の収集・選別・加工・発信ができる総合的な能力）」を習得する必要がある。本講義は、その最初の作業に位置付けられる。

専門性の高い科目の記入例

所属メジャー（経済分析）分野に関し、自ら問題を設定し、自ら問題解決を行なう能力を育むための科目である（教育目標4に対応）。

※授業科目の内容に応じて教育目標の文言を一部抜粋（上記例では「及びその成果を理論的な文章にまとめ、発表する能力」を省略）して記入することも可能です。

経済学部の教育目標3「所属メジャー（国際ビジネスと社会発展）の主要な応用的分野の専門知識を習得する」に対応する科目である。

卒業研究の場合の記入例

卒業研究論文の作成を通じて、所属メジャー（法と公共政策）分野に関し、自ら問題を設定し、自ら問題解決を行なう能力、及びその成果を理論的な文章にまとめ、発表する能力を育む科目である（教育目標4に対応）。

※授業科目の内容に応じて下線部のような補足的記述を含めることも可能です。

i. 経済学部のカリキュラム・マップに示された教育目標

教育目標 1

社会科学系専門科目を学修するための基礎を修得する。

教育目標 2

所属メジャー（経済分析、国際ビジネスと社会発展、経営イノベーション、法と公共政策）の中核的専門知識を修得する。

教育目標 3

所属メジャー（経済分析、国際ビジネスと社会発展、経営イノベーション、法と公共政策）の主要な応用的分野の専門知識を習得する。

教育目標 4

演習や卒業研究論文を通じて、所属メジャー（経済分析、国際ビジネスと社会発展、経営イノベーション、法と公共政策）分野に関し、自ら問題を設定し、自ら問題解決を行ないうる能力、及びその成果を理論的な文章にまとめ、発表する能力を育む。

教育目標 5

日本の社会、経済、経営、法、公共政策など社会科学系の日本研究を英語で理解し、わが国社会について自ら国際的に発信しうる能力を涵養する。

ii. 経済学部のディプロマ・ポリシー

○昼間コース

埼玉大学経済学部規程の定める教養・スキル・リテラシー科目（基盤科目及び外国語科目）、初年次科目及び専門科目を所定の期間内に履修して以下に掲げる本学部教育研究上の目的に資する知識と能力を身に付け、かつ所定の単位以上を修得した者に対して卒業を認定し学士（経済学）の学位を授与する。

- ・ 経済分析メジャー：経済学の基礎理論を踏まえつつ、日本や世界が抱える様々な経済問題を歴史的・国際的な視野から考え、自ら解を模索する
- ・ 国際ビジネスと社会発展メジャー：経済・経営・社会の発展をグローバルな視点から理解し、グローバル経済とグローバルビジネスが直面する諸問題を自ら考える
- ・ 経営イノベーションメジャー：管理・戦略的視点、財務的視点、倫理的視点を基礎に、企業や組織のイノベティブな活動にかかわる諸問題を創造的に考える
- ・ 法と公共政策メジャー：法に特徴的な思考力とリーガルマインドの育成を基礎とし、経済・ビジネスにかかわる法的諸問題や公共部門が担う政策問題について、自ら問題を立て、解決する

○夜間主コース

埼玉大学経済学部規程の定める外教養・スキル・リテラシー科目（基盤科目及び外国語科目）及び専門科目を所定の期間内に履修して、諸科学に関する幅広い基本的知識と経済学・経営学・法学などの社会科学に関する十分な知識・能力を基に自ら問題を発見し、分析し、解決することができ、かつ所定の単位以上を修得した者に対して卒業を認定し学士（経済学）の学位を授与する。

iii. 各部局のディプロマ・ポリシーから抽出した一般性のある目標

- (1) 論理的、批判的思考力
- (2) 根拠に基づいた分析力（情報収集力含む）
- (3) みずからの主張や意見を形成し発信する能力
- (4) 他者との共生の基盤となる、みずからの社会的な責任の自覚
- (5) 知識・スキルを他領域に敷衍・応用する力

c. 教育学部

担当する授業科目のカテゴリーに応じて以下の文言を参考に記入してください。本資料には参考として「i.教育学部のカリキュラム・マップに示された教育目標」、「ii. 教育学部のディプロマ・ポリシー」、「iii. 各部署のディプロマ・ポリシーから抽出した一般性のある目標」も示しましたので、適宜これらの内容を加えていただくことも可能です。

基礎的な科目の記入例

力量のある質の高い教員を養成するために、教科に関する専門的な知識や技能の土台を構築するための科目である（教育目標1と教育学部ディプロマ・ポリシー①に対応）。

※カリキュラム・マップの教育目標1及び教育学部ディプロマ・ポリシー①に基づく記入例として示していますが、そこでは「教科や専門分野に関する専門的な知識・技能」という幅のある書き方になっているため、授業科目の内容に応じて下線部のような補足的記述を含めることもご検討ください。

専門性の高い科目の記入例

力量のある質の高い教員を養成するために、教科や専門分野に関する専門的な知識・技能を身につけるための科目である（教育目標1及び2に対応）。

※実技系の科目の場合は、下線部を「技能」のみにすることも可能です

卒業研究の場合の記入例

力量のある質の高い教員を養成するために不可欠な、「課程専修分野ごとの専門的教育」の総仕上げと位置づけられる科目である（教育目標1及び2に対応）。

※授業科目の内容に応じて下線部のような補足的記述を含めることも可能です。

i. 教育学部のカリキュラム・マップに示された教育目標

教育目標 1

教育学部では、力量のある質の高い教員養成を主眼とする。

教育目標 2

教育学部では、課程専修分野ごとに専門的教育を行い、教職の専門性と学問・文化の専門性の両方を修得させる。

教育目標 3

卒業要件として教員免許の取得を必修とし、教員免許・資格の取得に必要な教育課程を編成する。

ii. 教育学部のディプロマ・ポリシー

教育学部は、多様な学校種における主体的で豊かな人間性を身につけた力量ある質の高い教員を養成することを目的としている。

そのため、教育学部では、所定の教育課程を修め、以下の知識を修得し、求められる資質・能力を獲得したものに学士（教育学）の学位を授与する。

①専門的な深い知識の修得に関連する事柄

- 課程・コース・専修等ごとに定められた教育に関する専門的な知識・技能
 - ・教職に関する専門的な知識・技能
 - ・教科や専門分野に関する専門的な知識・技能

②専門性のある幅広い基本的知識の修得に関連する事柄

- 教育の基盤となる基本的知識、態度、能力
 - ・日本国憲法に関する基本的な理解
 - ・心身の健康に関する基本的な理解と態度
 - ・人文・社会・自然諸科学に関する幅広い理解
 - ・英語を用いて意思を疎通させる能力
 - ・情報リテラシーとプレゼンテーション能力

③学部における人材養成の目的に合致した資質・能力の獲得に関連する事柄

- 力量のある教員に必要な知識・技能を活用できる能力
 - ・教科や専門分野に関する知識・技能を指導に生かすための方法的技術
 - ・教育実践を通じた子供理解と実践的指導力
- 教員に求められる人間性と社会性
 - ・教員としての使命感や責任感、教育的愛情

- 教員としての社会性や対人関係能力
- 社会貢献への強い意欲
- 学び続ける姿勢

iii. 各部局のディプロマ・ポリシーから抽出した一般性のある目標

- (1) 論理的、批判的思考力
- (2) 根拠に基づいた分析力（情報収集力含む）
- (3) みずからの主張や意見を形成し発信する能力
- (4) 他者との共生の基盤となる、みずからの社会的な責任の自覚
- (5) 知識・スキルを他領域に敷衍・応用する力

d. 理学部

担当する授業科目の категорияに応じて以下の文言を参考に記入してください。本資料には参考として「i.理学部のカリキュラム・マップに示された教育目標」、「ii.理学部のディプロマ・ポリシー」、「iii.各部署のディプロマ・ポリシーから抽出した一般性のある目標」も示しましたので、適宜これらの内容を加えていただくことも可能です。

基礎的な科目の記入例

理学部ディプロマ・ポリシー(1)にある「自然科学の基幹領域に関する基礎知識」を獲得するための科目である。

専門性の高い科目の記入例

数学科の教育目標1のうち、「専門的な数学の基礎学力と応用力を養成する」ための科目である。

※授業科目の内容に応じて教育目標の文言を一部抜粋して記入することも可能です。

現代の化学を総合的に理解するための基礎知識を修得する（基礎化学科教育目標1）とともに、自然科学における「化学」の役割を理解し、社会における重要性を認識する（基礎化学科教育目標3）ための科目である。

卒業研究の場合の記入例

学科教育プログラムの最終段階として、専攻する専門領域（数学）に関する専門知識とそれをもとにした思考力を修得するための科目である。

学科教育プログラムの最終段階として、自然現象を、すじみちを立てて理解する物理学の考え方を身につけるため、研究活動を行い、それをとりまとめる科目である。

i. 理学部のカリキュラム・マップに示された教育目標

①数学科

教育目標 1

専門的な数学の基礎学力と応用力を養成します。

教育目標 2

論理的思考力および表現力を養います。

教育目標 3

ものごとをじっくり考える力と、分かるまで突き詰めて考えることができる能力を養成します。

②物理学科

教育目標 1

自然現象を、すじみちを立てて理解する物理学の考え方を身につけます。

教育目標 2

現代物理学を理解し、応用するための基礎を養成します。

教育目標 3

物理学に関わる様々な科学分野に貢献し、広く社会で活躍できる人材を養成します。

③基礎化学科

教育目標 1

現代の化学を総合的に理解するための基礎知識を修得します。

教育目標 2

化学の研究者、教育者、技術者またはその周辺の科学を専攻する者に必要な基礎技術を修得します。

教育目標 3

自然科学における「化学」の役割を理解し、社会における重要性を認識した、広い視野をもつ社会人を育成します。

④分子生物学科

教育目標 1

生命現象を分子の働きから理解するための基礎知識と研究手法を修得します。

教育目標 2

生命現象を研究することを通して論理的思考による問題発見能力を養成します。

教育目標 3

生命と環境に関して見識のある社会人を育成します。

⑤生体制御学科

教育目標 1

複雑で多様な生命現象を理解するために必要となる幅広い知識と素養の習得を図ります。

教育目標 2

生命科学分野の各方面において活躍するために必要となる高い専門性と独創性を育成します。

教育目標 3

社会における生命科学研究の役割を理解し、幅広い視野をもつ社会人を育成します。

ii. 理学部のディプロマ・ポリシー

理学部では、所定の教育課程を修め、以下を修得し、求められる能力を獲得し資質の涵養に努めた者に学士（理学）の学位を授与する。

(1) 自然科学分野における十分な知識と思考力

- 自然科学の基幹領域（数学・物理学・化学・生物学・地学など）に関する基礎知識とそれを基にした思考力
- 専攻する専門領域（数学、物理学、基礎化学、分子生物学、生体制御学のいずれか）に関する専門知識とそれを基にした思考力

(2) 人文学、社会科学の様々な学問分野に関する幅広い基本的理解と現代テクノロジーに関する基本的理解

- 人文学の基幹領域（哲学・歴史学・文学など）に関する基本的理解
- 社会科学の基幹領域（法学・政治学・経済学など）に関する基本的理解
- 現代テクノロジーに関する基本的理解

(3) 主として「知識を活用できる汎用的な能力の修得」に関わる内容

- 国内外の人々との的確に意思疎通できるコミュニケーション能力の育成
- 情報機器に関する基本的理解
- 新たな問題を発見しそれに取り組み解決する能力

(4) 主として「理学部における人材養成の目的に合致した資質と能力」に関わる内容

- 応用や実用に偏しない基礎理論の重要性の理解

- 健全な社会生活を送るために必要な基本知識の理解
- 専門知識を職業に生かす能力

iii. 各部局のディプロマ・ポリシーから抽出した一般性のある目標

- (1) 論理的、批判的思考力
- (2) 根拠に基づいた分析力（情報収集力含む）
- (3) みずからの主張や意見を形成し発信する能力
- (4) 他者との共生の基盤となる、みずからの社会的な責任の自覚
- (5) 知識・スキルを他領域に敷衍・応用する力

e. 工学部

担当する授業科目のカテゴリーに応じて以下の文言を参考に記入してください。本資料には参考として「i.工学部のカリキュラム・マップに示された教育目標」、「ii.工学部のディプロマ・ポリシー」、「iii.各部署のディプロマ・ポリシーから抽出した一般性のある目標」も示しましたので、適宜これらの内容を加えていただくことも可能です。

基礎的な科目の記入例

機械工学・システムデザイン学科の教育目標(A-1)「工学および機械工学にかかわる基礎的知識を修得する」ための科目である。

※特定の学科に所属する学生のみが履修する教科の場合は、下線部を「本学科」としてもよいでしょう。以下の例についても同様です。

技術者として必要不可欠な物理学に関する基礎知識を付与し、それを応用できる素養を身につけるための科目である（電気電子物理工学科の教育目標 B1 に対応）。

※教育目標そのものでは「数学、物理学、化学、情報技術」という風に分野が列挙されているが、授業科目の内容に応じて一つに絞ることも可能です。

専門性の高い科目の記入例

この科目は電気電子物理工学科の教育目標 F「専門知識と技術」に対応する。

※複数の目標を併記する場合には、例えばこのような書き方が可能です。

情報工学科のかかげる教育目標中、「幅広い素養に基づく応用力」と「広義のコミュニケーション能力」を身につけることを目指す科目である。

卒業研究の場合の記入例

本学科の教育目標(D)「実験・研究を通して、問題発見・解決能力とデザイン能力とを備えた化学技術者および研究者を養成する」および教育目標(E)「化学的成果を産業化に結びつけるための専門知識と能力を有し、問題を的確に把握し、有用な研究成果を導く能力を備えた化学技術者および研究者を養成する」に対応する。

専門基礎知識を修得し、応用できる素養を深い次元で身につける（本学科教育目標 1-2）とともに、自ら課題を見出し、計画的に取り組み、解決する能力を徹底的に仕上げる（同 2-1）ための科目である。

※卒業研究のレベルに対応して下線部のような内容を付加することも可能です。

i. 工学部のカリキュラム・マップに示された教育目標

1. 機械工学・システムデザイン学科

- (A) 工学および一般社会に関する基礎的知識を徹底的に理解すること。
- (A-1) 工学および機械工学に関わる基礎的知識を修得する。
- ・ 機械工学の基礎となる、数学および物理学に関する基礎的知識
 - ・ 理工系に関わる幅広い内容に関する基礎的知識
 - ・ 情報処理に関する基礎的知識
- (A-2) 人文、社会科学および自然科学など、一般社会の基盤に関わる基礎的知識を修得する。
- (A-3) 国際的に活動するため、コミュニケーション手段としての外国語を修得する。
- (B) 機械工学の基礎および専門的知識を修得し、機械システムのデザインへ応用する能力を獲得すること。
- (B-1) 機械工学の基礎となる「材料と機械の力学」、「エネルギーと流れ」、「情報と制御」、「設計と生産」に関する知識を修得し、その知識を応用・総合する能力を獲得する。
- (B-2) 実験・実習科目などをとおして、実際の機械の構造、機構および性能に関する知識を修得する。
- (B-3) 卒業研究などの科目をとおして、機械システムをデザインし、イノベーションへと発展させる能力を獲得する。
- (C) 社会の健全な発展に対し機械工学技術者としてなすべき役割を認識すること。
- (C-1) 一般社会に関する知識を活用し、機械工学が社会の健全な発展に対しどのような役割を果たしているのか理解する。
- (C-2) 社会の健全な発展に対し機械工学技術者としてどのように貢献すべきかについて、職業倫理の立場から認識する。
- (D) 表現能力、コミュニケーション能力およびリーダーシップ能力を獲得すること。
- (D-1) 技術的資料を的確に理解するとともに、その内容を論理的に説明する能力を獲得する。
- (D-2) 技術的内容を文章として表現する能力および口頭で説明し議論するためのコミュニケーション能力を獲得する。
- (D-3) 異分野の技術者とも協働し、新たな技術を開拓するために必要なコミュニケーション能力およびリーダーシップ能力を獲得する。
- (E) 自ら課題を設定するとともに、課題の解決にあたって独創的に思考する能力を獲得すること。
- (E-1) 与えられた問題あるいは自ら設定した事象から解決すべき課題を系統的に

設定するとともに、自己が身につけた知識を幅広く応用することにより、課題を解決する能力を獲得する。

(E-2) 課題を解決する過程において、独創的に思考する能力を獲得する。

2. 電気電子物理工学科

A. 社会人・国際人としての教養

人文学系および社会学系、自然科学系科目で構成された基盤科目、および工学部教養科目（D2 群科目）により、文化、経済、科学などに関する横断的知識を付与し、それに基づき社会人・国際人である技術者として地球的観点から社会、環境、文化などを多面的に考えられる素養を養成する。

B. 技術者としての(B1)幅広い知識と(B2)倫理観

(B1)幅広い知識

理工系基礎教育科目（D1 群科目）および学科専門基礎科目（D3 群科目）により、技術者として必要不可欠な数学、物理学、化学、情報技術など、工学に関する基礎知識を付与し、それを応用できる素養を身につける。

(B2)技術者倫理

「技術者倫理」により、技術者として社会あるいは地球環境に対して自ら責任を負うことのできる能力と倫理観を養成する。

C. 専門的基礎知識

学科専門科目（卒業研究を除く D4 群必修科目および D4a 亜群科目）により、電気電子技術者として必要不可欠な専門的基礎知識について、通常の講義と演習を併用し、徹底的な理解を図る。

D. 課題設定および課題解決のためのデザイン能力

「電気電子物理工学実験Ⅲ」と「卒業研究」などにより、特定のテーマについて学生が自主的に課題を設定し、自らの創意と工夫によって粘り強く継続的に実験・研究を推進させ、学科専門基礎科目・専門科目で修得した知識と技術を応用して、得られた結果をまとめて考察できる能力を養う。また、「プログラミング演習」、「数値解析とアルゴリズム」、「数値解析とアルゴリズム演習」により、与えられた課題を解決するためのアルゴリズムを創造し、それをプログラミングにより表現する能力を養う。

E. 社会人・国際人としてのコミュニケーション能力

「情報基礎」などにより情報リテラシーの養成を図り、それを基に「工学入門セミナー」と「電気電子物理工学実験Ⅰ、Ⅱ」などにより、社会人として必要不可欠な日本語によるプレゼンテーション能力並びにコミュニケーション能力を養成する。外国語科目の「英語」、「卒業研究」などにより、国際人として自己主張

するために必要不可欠な英語の読解力・記述力とコミュニケーション能力の基礎を養う。

F. 専門知識・技術

大学院における研究、あるいは4年で卒業する学生に対しては産業界における様々な技術革新に対応できるように、学科専門科目（D4群科目）により、卒業後の活躍分野を見据えた電気・電子・情報通信技術に係わる専門知識と技術を付与する。さらに「卒業研究」において、これらの専門知識と技術を駆使することで、与えられた課題における解決すべき問題点を把握し、自主的な創意工夫により問題を解決しながら継続的に研究を行うことにより、産業界における様々な技術革新に対応できる能力を養う。

G. 実践的応用能力と計画的遂行能力

「工学入門セミナー」と「電気電子物理工学実験Ⅰ、Ⅱ」、イノベーション科目（D6群科目）などにより、基礎知識と専門知識の徹底した理解を図り、実践的な応用能力と与えられた制約の下での計画的な作業遂行能力及びチームワークにより課題を遂行する能力を養う。また、実験レポートの作成とその発表によって、自発的学習の習慣、データ解析手法、論理的考察力、技術的文章記述力、プレゼンテーション能力を養う。さらに、多様な人材と協働して共通の目標達成や課題解決に導くことができるリーダーシップと高い専門性を兼ね備えた実践力を修得する。

3. 情報工学科

※シラバスに記入しやすいように教育推進室で整理させていただきました。() は対応する科目群です。

(A) 時流の変化に対応できる真の基礎学力を身につける。

(A1) 理工系学生としての基礎的教養を身につける。(理工系基礎教育科目)

(A2) 初中等教育から高等教育へのスムーズな橋渡しを行う。(入門科目)

(A3) 情報工学系の学修に必須となる基礎的知識を身につける。(コア科目)

(B) 幅広い素養に基づく応用力を身につける。

(B1) 計算機科学、システム工学、知能情報、情報通信工学分野における専門知識と応用力を身につける。(専門科目)

(B2) 人間に学び、人間と共存する情報システムについての専門知識と応用力を身につける。(専門科目の一部)

(C) グローバルな視野と社会人としての責任感を育成する。

(D) 理論と実践のいずれにもたけた、バランス感覚豊かな人材を育成する。

(E) 広義のコミュニケーション能力（読解力、論述力、プレゼンテーション能力、ディスカッション能力）を育成する。

(F) 地域社会の重要性を自覚し、地域に根差した情報技術の発展に寄与できる人材を育成する。

4. 応用化学科

※下線部は、それぞれの教育目標に対応する科目群についての記述です。

- (A) 国際的な視野と社会性および豊かな人間性を備え、環境に調和した化学とその関連分野の技術を修得した技術者・研究者を養成する。主に外国語科目、基盤科目、工学部教養科目群 (D2)、イノベーション科目群 (D6) で涵養する。
- (B) 自主的かつ継続的な学習・研究能力を備えた化学技術者を養成する。すべての専門科目群で涵養する。
- (C) 数学・自然科学および工学基礎知識を備えた化学技術者を養成する。主に理工系基礎教育科目群 (D1)、学科専門基礎科目群 (D3) および学際専門科目群 (D5) で涵養する。
- (D) 実験・研究を通して、問題発見・解決能力とデザイン能力とを備えた化学技術者および研究者を養成する。主に学科専門科目群 (D4) の「応用化学実験 I～IV」、「卒業研究 I」で涵養する。
- (E) 化学的成果を産業化に結びつけるための専門知識と能力を有し、問題を的確に把握し、有用な研究成果を導く能力を備えた化学技術者および研究者を養成する。すべての科目、特に D6 群および D4 群の「卒業研究 I」、「インターンシップ」で涵養する。

5. 環境社会デザイン学科

(1) 工学および専門基礎知識の修得

(1-1) 工学基礎知識を修得し、応用できる素養を身につける

(1-1-1) 数学の基礎知識を修得し、応用できる素養を身につける

(1-1-2) 自然科学の基礎知識を修得し、応用できる素養を身につける

(1-1-3) 情報技術の基礎知識を修得し、応用できる素養を身につける

(1-2) 専門基礎知識を修得し、応用できる素養を身につける

(1-2-1) 地盤・地震工学の基礎知識を修得し、応用できる素養を身につける

(1-2-2) 力学一般および構造・材料工学の基礎知識を修得し、応用できる素養を身につける

(1-2-3) 水理・環境学の基礎知識を修得し、応用できる素養を身につける

(1-2-4) 計画学の基礎知識を修得し、応用できる素養を身につける

(2) 問題発見・解決能力の育成

(2-1) 自ら課題を見出し、計画的に取り組み、解決する能力を育む

(2-1-1) 自ら課題を見出し、その解決に取り組むためのデザイン能力を育む

- (2-1-2) 課題に計画的に取り組み、解決する能力を育む
- (2-2) 自主的、継続的に学習できる能力を育む
- (2-3) 日本語による論理的な記述力、発表および討議などのコミュニケーション能力を育む
- (3) 社会性の養成
 - (3-1) 社会に対する深い理解と技術者倫理の素養を身につける
 - (3-2) 共同し課題に取り組み、対応する能力を育む
- (4) 国際的視野の涵養
 - (4-1) 英語でのコミュニケーション能力の素養を身につける
 - (4-2) 諸外国に関する理解を増進し、多面的に物事を考える能力と国際的に活躍できる素養を身につける

ii. 工学部のディプロマ・ポリシー

工学部では、自らの資質の涵養に努め、専門性のある幅広い知識と専門的な深い知識(1)～(3)および思考力・判断力・表現力(4)、(5)を修得し、主体性・多様性・協働性(6)、(7)を身につけ、各学科における人材養成の目的に合致した能力を獲得した者に学士（工学）の学位を授与する。

国立大学法人埼玉大学工学部規程に定めた基準に基づいて卒業認定を行う。授業科目毎に定めた到達目標に対する到達度に基づいて成績を厳格に評価する。

- (1) 技術者・研究者の教養となる人文学および社会科学に関する幅広い知識
- (2) 数学、自然科学、情報技術など工学の基礎に関する深い知識
- (3) 各専門分野における深い知識
 - ・機械工学・システムデザイン、電気電子物理工学、情報工学、応用化学、および環境社会デザインに関する深い専門的知識
 - ・専門分野に関係する他の工学分野や境界領域における幅広い知識
- (4) 修得した知識に基づき複雑な課題に柔軟に対応して解決する実践的能力
 - ・論理的な思考力と判断力
 - ・知識を応用して課題を解決できる能力
 - ・種々の情報を利用して課題の解決方法をデザインする能力
 - ・種々の技術を統合・システム化して社会実装できる能力
- (5) 国際的視野とコミュニケーション能力
 - ・地球的視点から多面的に物事を考える能力とその素養
 - ・国内外の人々との的確に意思を疎通できるコミュニケーション能力
- (6) 主体性・多様性・協働性に関する能力
 - ・技術者・研究者として主体的に行動する能力

- ・技術者・研究者として多様な人々と協働する能力
- (7) 科学技術が社会や自然に及ぼす影響、技術者・研究者の社会的責任を理解できる能力および社会的責任を自覚できる職業倫理観

iii. 各部局のディプロマ・ポリシーから抽出した一般性のある目標

- (1) 論理的、批判的思考力
- (2) 根拠に基づいた分析力（情報収集力含む）
- (3) みずからの主張や意見を形成し発信する能力
- (4) 他者との共生の基盤となる、みずからの社会的な責任の自覚
- (5) 知識・スキルを他領域に敷衍・応用する力

III. 大学院開設科目

a. 人文社会科学研究科

担当する授業科目のカテゴリーに応じて以下の文言を参考に記入してください。
本資料には参考として「i.人文社会科学研究科のカリキュラム・マップに示された教育目標(専修別)」、「ii. 人文社会科学研究科のディプロマ・ポリシー」、「iii. 各部署のディプロマ・ポリシーから抽出した一般性のある目標」も示しましたので、適宜これらの内容を加えていただくことも可能です。

基礎的な科目の記入例

- ・人文社会科学研究科博士前期課程文化環境専攻の教育目標(1)「人文学を中心とする諸研究分野における深く幅の広い知識と方法の修得」ことを主眼とする科目である。
- ・人文社会科学研究科博士前期課程経済経営専攻の教育目標(1)「経済・経営・行政についての学識および理論的・実証的な分析能力」を習得することを主眼とする科目である。

専門性の高い科目の記入例

- ・人文社会科学研究科博士前期課程国際日本アジア専攻の教育目標4「人文社会科学における課題設定・解決能力、および独創的な思考力を獲得する」ための科目である。

i. 人文社会科学研究科のカリキュラム・マップに示された教育目標(専修別)

<博士前期課程 文化環境専攻>

教育目標 1

人文社会科学における広い知見を修得する。

教育目標 2

人文社会科学における基礎的な知識を修得する。

教育目標 3

人文社会科学における基礎的な知識を習得し、それを応用・総合する能力を修得する。

教育目標 4

人文社会科学における課題設定・解決能力、および独創的な思考力を獲得する。

<博士前期課程 国際日本アジア専攻>

教育目標 1

人文社会科学における広い知見を修得する。

教育目標 2

人文社会科学における基礎的な知識を修得する。

教育目標 3

人文社会科学における基礎的な知識を習得と、それを応用・総合する能力を修得する。

教育目標 4

人文社会科学における課題設定・解決能力、および独創的な思考力を獲得する。

<博士前期課程 経済経営専攻>

教育目標 1

人文社会科学における広い知見を修得する。

教育目標 2

経済・経営・行政に関わる基礎的な知識を修得する

教育目標 3

経済・経営・行政に関わる基礎的な知識を修得と、それを応用・総合する能力を修得する

教育目標 4

課題設定・自己解決能力および独創的な思考力を修得する

<博士後期課程 日本アジア文化専攻>

教育目標 1

人文社会科学における広い知見を修得する。

教育目標 2

人文社会科学に関わる広い知見と、それを応用・総合する能力を修得する

教育目標 3

課題設定・自己解決能力および独創的思考力を修得する

<博士後期課程 経済経営専攻>

教育目標 1

経済・経営・行政に関わる基礎的な知識を修得する

教育目標 2

経済・経営・行政に関わる基礎的な知識を修得と、それを応用・総合する能力を修得する

教育目標 3

課題設定・自己解決能力および独創的な思考力を修得する

ii. 人文社会科学研究科のディプロマ・ポリシー

博士前期課程の修了認定・学位授与の方針

人文社会科学研究科（博士前期課程）では、人文学・社会科学の幅広い研究を基礎とし、知識基盤社会の知的担い手となる高度専門職業人、修士の学位を持つ社会人、日本・アジアの視点を軸にグローバルに活躍しうる人材を育成するため、所定の教育課程を修め、専攻ごとに求める以下の能力を身につけた者に修士の学位を授与する。

<文化環境専攻>

- (1) 人文学を中心とする諸研究分野における深く幅の広い知識と方法の修得
- (2) 今日の多様な文化と社会についての理解
- (3) グローバルな視点から考察・分析する能力
- (4) 社会的応用力

<国際日本アジア専攻日本アジア文化コース>

- (1) 日本とアジアに関する人文学を中心とする学識国際的な視野から文化・歴史・社会を洞察できる能力

<国際日本アジア専攻日本アジア経済経営コース>

- (1) 日本とアジアの文化・歴史・社会に関する学識

(2)経済・経営・行政についての理論的・実証的な分析能力

〈経済経営専攻〉

- (1) 経済・経営・行政についての学識および理論的・実証的な分析能力
- (2) (1)を活かした問題解決能力

博士後期課程の修了認定・学位授与の方針

人文社会科学部研究科（博士後期課程）では、博士前期課程の目的に加え、問題把握能力に優れ、広い視野と総合的な判断力を備え、新しい知を創造できる自立した研究者としての能力を有する高度専門職業人を育成するため、所定の教育課程を修め、専攻ごとに求める以下の能力を身につけた者に博士の学位を授与する。

〈日本アジア文化専攻〉

- (1) 日本とアジアにかかわる人文学・社会科学諸研究分野の知見
- (2) 自身の研究を通して得られたその応用力
- (3) (2)を活かした問題把握・解決能力
- (4) 広い視野と総合的な判断力

〈経済経営専攻〉

- (1) 企業、組織、社会が直面している諸課題について、自立的な調査研究を遂行する能力
- (2)経済・経営・行政についての理論と実務を融合し、自ら政策提言を行う能力

iii. 各部局のディプロマ・ポリシーから抽出した一般性のある目標

- (1) 論理的、批判的思考力
- (2) 根拠に基づいた分析力（情報収集力含む）
- (3) みずからの主張や意見を形成し発信する能力
- (4) 他者との共生の基盤となる、みずからの社会的な責任の自覚
- (5) 知識・スキルを他領域に敷衍・応用する力

b. 教育学研究科

担当する授業科目のカテゴリーに応じて以下の文言を参考に記入してください。
本資料には参考として「i. 教育学研究科のカリキュラム・マップに示された教育目標(プログラム別)」、「ii. 教育学研究科のディプロマ・ポリシー」、「iii. 各部署のディプロマ・ポリシーから抽出した一般性のある目標」も示しましたので、適宜これらの内容を加えていただくことも可能です。

基礎的な科目の記入例

- ・教育学研究科総合教育高度化プログラム学校構想サブプログラムの教育目標(1)「高度な知識・技能に基づいた授業実践力の育成」に対応する科目である。
- ・教育学研究科教科教育高度化プログラム言語文化系教育サブプログラムの教育目標(3)「的確な課題把握に基づく教育経営・学校運営力の育成」に対応する科目である。

専門性の高い科目の記入例

- ・教育学研究科総合教育高度化プログラム学校構想サブプログラムの教育目標5「学校運営改善を推進する提案力」を育成するための科目である。

i. 教育学研究科のカリキュラム・マップに示された教育目標(プログラム別)

<総合教育高度化プログラム>

<学校構想サブプログラム>

教育目標 1

高度な知識・技能に基づいた授業実践力の育成

教育目標 2

子ども理解に基づく学級経営力の育成

教育目標 3

的確な課題把握に基づく教育経営・学校運営力の育成

教育目標 4

深い省察に基づく実践研究力の育成

教育目標 5

学校運営改善を推進する提案力

教育目標 6

地域や他校との連携を円滑に進める調整力

<特別教育支援サブプログラム>

教育目標 1

高度な知識・技能に基づいた授業実践力の育成

教育目標 2

子ども理解に基づく学級経営力の育成

教育目標 3

的確な課題把握に基づく教育経営・学校運営力の育成

教育目標 4

深い省察に基づく実践研究力の育成

教育目標 5

学校運営改善を推進する提案力

教育目標 6

地域や他校との連携を円滑に進める調整力

<学校保健サブプログラム>

教育目標 1

高度な知識・技能に基づいた授業実践力の育成

教育目標 2

子ども理解に基づく学級経営力の育成

教育目標 3

的確な課題把握に基づく教育経営・学校運営力の育成

教育目標 4

深い省察に基づく実践研究力の育成

<子ども共育サブプログラム>

教育目標 1

高度な知識・技能に基づいた授業実践力の育成

教育目標 2

子ども理解に基づく学級経営力の育成

教育目標 3

的確な課題把握に基づく教育経営・学校運営力の育成

教育目標 4

深い省察に基づく実践研究力の育成

教育目標 5

学校運営改善を推進する提案力

教育目標 6

地域や他校との連携を円滑に進める調整力

<教科教育高度化プログラム（各サブプログラムで教育目標は共通）>

教育目標 1

高度な知識・技能に基づいた授業実践力の育成

教育目標 2

子ども理解に基づく学級経営力の育成

教育目標 3

的確な課題把握に基づく教育経営・学校運営力の育成

教育目標 4

深い省察に基づく実践研究力の育成

教育目標 5

学校運営改善を推進する提案力

教育目標 6

地域や他校との連携を円滑に進める調整力

ii. 教育学研究科のディプロマ・ポリシー

専門職学位課程（教職大学院）は、社会の変化とともに学び続け、教員集団の中核として活躍する実践的探究力と課題解決力をもった教員を育成することを教育目的と

する。この教育目的を達成するために、以下の資質・能力を獲得した者に対し修了を認定し、教職修士（専門職）を授与する。

1. 高度な知識・技能に基づいた授業実践力

子どもたちの個性に応じた学習支援に配慮しつつ、彼らが主体的・協働的に学ぶ授業をデザインし、実践できる高度な力

2. 子ども理解に基づく学級経営力

子どもたちや子どもたちを取り巻く現状を多面的多角的に把握した上で、良好な人間関係を構築し、彼らの思いや願いを受けとめた適切な学級経営ができる高度な力

3. 的確な課題把握に基づく教育経営・学校運営力

学校課題を的確に把握して問題解決をはかり、学校運営の中核的スクールリーダーとなりうる高度な組織マネジメント力

4. 深い省察に基づく実践研究力

教職実践者として実践を深くリフレクションしながら、実践と理論を往還する高度な研究力

現職教員として入学した者には、上記1.～4.に加えて以下の資質・能力の獲得を求める。

5. 学校運営改善を推進する提案力

最新の教育動向を踏まえ、学校現場に向けて、効果的な授業の改善策や学校運営の改善策を提案し推進していく高度な力

6. 地域や他校との連携を円滑に進める調整力

対話を通して、地域や他校との適切な調整を行い、連携を推進することができる高度な力

iii. 各部局のディプロマ・ポリシーから抽出した一般性のある目標

- (1) 論理的、批判的思考力
- (2) 根拠に基づいた分析力（情報収集力含む）
- (3) みずからの主張や意見を形成し発信する能力
- (4) 他者との共生の基盤となる、みずからの社会的な責任の自覚
- (5) 知識・スキルを他領域に敷衍・応用する力

c. 理工学研究科

担当する授業科目のカテゴリーに応じて以下の文言を参考に記入してください。
本資料には参考として「i.理工学研究科のカリキュラム・マップに示された教育目標(プログラム別)」、「ii. 理工学研究科のディプロマ・ポリシー」、「iii. 各部局のディプロマ・ポリシーから抽出した一般性のある目標」も示しましたので、適宜これらの内容を加えていただくことも可能です。

基礎的な科目の記入例

- ・理工学研究科博士前期課程生命科学専攻分子生物学プログラムの教育目標(1)「分子生物学に関する専門知識の修得」に対応する科目である。

専門性の高い科目の記入例

- ・理工学研究科博士後期課程理工学専攻数理電子情報コースの教育目標(1)「最先端の知識を含め専門分野の知識を深める」に対応する科目である。

i. 理工学研究科のカリキュラム・マップに示された教育目標(プログラム別)

◎博士前期課程

教育目標[課程共通]

現代的な課題への対応能力の育成

<生命科学専攻>

教育目標[専攻共通]

関連する周辺分野の共通知識の修得

○分子生物学プログラム

教育目標 1

分子生物学に関する専門知識の習得

教育目標 2

独創的かつ実践的な研究を行う資質の育成

教育目標 3

国際性を身につけた研究者や技術者、教育者として、現代社会が抱える諸問題に取り組み成果を挙げる能力の向上

○生体制御学プログラム

教育目標 1

生物現象の制御機構に関する専門性の高い知識の修得

教育目標 2

生命の連続性及び生理現象の恒常性に関する先端的な研究に寄与できる能力の育成

教育目標 3

国際的に活躍する研究者や高度専門職業人として、生命科学や健康福祉、生物資源の活用などに関わる諸分野の発展に貢献できる資質の向上

<物質科学専攻>

教育目標[専攻共通]

関連する周辺分野の共通知識の修得

○物理学プログラム

教育目標 1

専門性の高い物理学の知識修得

教育目標 2

最先端の研究に寄与できる能力の修得

教育目標 3

実験分野における、最先端の研究に寄与できるような技能の習得

教育目標 4

課程修了後に教育及び社会の諸分野で活躍できる資質、または、博士後期課程に進学し研究者を目指す資質の涵養

○基礎化学プログラム

教育目標 1

専門性の高い基礎化学的知識の修得と先端的専門知識の深い理解

教育目標 2

課題探求能力、問題解決能力、未知なる事象への対応力の育成、及び実験技術の修得

教育目標 3

課程修了後に教育及び社会の諸分野で活躍できる資質又は博士後期課程に進学し研究者を目指す資質の涵養

○応用化学プログラム

教育目標 1

応用化学全分野の体系的な修得

教育目標 2

最先端の工学的創造に寄与できる能力の養成

教育目標 3

課程修了後に教育及び社会の諸分野で活躍できる資質又は博士後期課程に進学し研究者を目指す資質の涵養

<数理電子情報専攻>

教育目標[専攻共通]

関連する周辺分野の共通的知识の修得

○数学プログラム

教育目標 1

専門性の高い数学的知識の修得

教育目標 2

最先端の研究に寄与できる能力の養成

教育目標 3

課程修了後に教育及び社会の諸分野で活躍できる資質又は博士後期課程に進学し研究者を目指す資質の涵養

○電気電子物理工学プログラム

教育目標 1

電気・電子・光・情報通信・材料デバイス技術分野の専門知識と最先端の知見の修得

教育目標 2

課題に対応できる応用能力を発展させ、技術革新を生み出す柔軟性と論理的思考能力の獲得

教育目標 3

当該分野に関する内容を適確に表現する能力の修得

○情報工学プログラム

教育目標 1

情報工学に関する幅広く豊かな識見の獲得

教育目標 2

最先端の研究に寄与できる能力の涵養

教育目標 3

自らの着想により課題を解決する能力の修得

教育目標 4

口頭発表能力、討論能力、論述能力、文献調査能力、学術論文・技術資料の読解能力を含む広義のコミュニケーション能力の修得

<機械科学専攻>

○機械科学プログラム

教育目標 1

機械工学に関する先端的専門知識の理解

教育目標 2

専門知識を応用・総合して研究する能力の修得と、社会における役割の認識と職業倫理の理解

教育目標 3

機械工学分野に関する内容を的確に表現する能力の修得

<環境社会基盤専攻>

○環境社会基盤国際プログラム

教育目標 1

専門知識及び技術の修得

教育目標 2

最先端の知識と研究能力の修得

教育目標 3

英語による講義の開講や、海外の協定校との単位互換など、国際性の涵養

教育目標 4

課程修了後に教育及び社会の諸分野で活躍できる資質又は博士後期課程に進学し研究者を目指す資質の涵養

◎博士後期課程理工学専攻

<全コース共通>

教育目標 1

最先端の知識を含め専門分野の知識を深める

教育目標 2

独創性が高く国際的にも活躍できる研究者・高級技術者としての能力を涵養する

ii. 理工学研究科のディプロマ・ポリシー

理工学研究科博士前期課程の修了認定・学位授与の方針

博士前期課程においては、所定の教育課程を修め、所属する専門教育プログラム、すなわち分子生物学、生体制御学、物理学、基礎化学、応用化学、数学、電気電子物理工学、情報工学、機械科学、環境社会基盤国際、地球環境における科学技術の応用と融合、のいずれかで専門知識を基に研究を行い、専攻・専門教育プログラムごとに求められている能力を獲得し、資質を涵養した者に修士（理学）又は修士（工学）の学位を授与する。

生命科学専攻

本専攻は、分子生物学プログラム、生体制御学プログラムの2つのプログラムで構成されており、修了後に生命科学分野において、教育・研究・技術開発に活躍しうる人材を育てるためのカリキュラムを設計している。これらの2つのプログラムは独立したものでなく、専攻共通科目を通じて有機的に結びついており、隣接する分野における学術的な関連性を含めて広く学ぶことを可能としている。一方で、それぞれのプログラム以外から履修できる科目数を制限し、各プログラムからの履修単位数を20以上とすることで高い専門性を担保する。以上のカリキュラムにより、それぞれのプログラムにおける高度な専門性と、隣接する関連分野の幅広い見識を修得し、社会の諸分野の発展に寄与する能力を涵養した者に修士(理学)を授与する。

各プログラムのディプロマ・ポリシーは以下のとおりである。

・分子生物学プログラム

分子生物学プログラムでは、所定の教育課程を修め、分子生物学に関する専門知識をもとに独創的な研究を行うことで、国際性を身につけた研究者や技術者、教育者として、食料・環境・医療など社会が抱える諸問題に取り組み、成果を挙げることのできる能力を獲得し資質を涵養した者に修士（理学）の学位を授与する。

・生体制御学プログラム

生体制御学プログラムでは、細胞レベルから個体レベルにわたる生体の制御機構に関する基礎学問を修め、動物・植物・菌類などを用いた生命の連続性及び生理現象の恒常性に関する先端的な研究を進めるための専門技術を修得することで、国際的に活躍する研究者や高度専門職業人として、生命科学や健康福祉、生物資源の活用などに関わる諸分野の発展に貢献できる資質を涵養した者に修士（理学）の学位を授与する。

物質科学専攻

本専攻は、物理学プログラム、基礎化学プログラム、応用化学プログラムの3つのプログラムで構成されている。修了後に物質科学を基盤とする分野において教育・研究・技術開発に活躍しうる人材を育てるためのカリキュラムを設計している。それらは独立しつつも、専攻共通科目を通じて有機的に結びついており、それにより隣接する分野における学術的な関連性を学ぶ。一方で、それぞれのプログラム以外から履修できる科目数を制限し、各プログラムからの履修単位数を24以上とすることで高い専門性を担保する。以上のカリキュラムにより、それぞれのプログラムにおける高度な専門性と、隣接する関連分野の幅広い見識を修得し、社会の諸分野の発展に寄与する能力を涵養した者に修士(理学)又は修士（工学）を授与する。

各プログラムのディプロマ・ポリシーは以下のとおりである。

・物理学プログラム

物理学プログラムでは、自然界の多岐にわたる現象をその根源から解明する物理学分野において、学士課程（理学部物理学科）と博士前期課程（物理学プログラム）を通した体系化されたカリキュラムに基づいた高度専門教育を実施し、基盤的学問の素養と幅広い視野を持つ、国際社会で活躍できる先端物質科学技術領域における専門家としての能力を獲得し資質を涵養した者に修士（理学）の学位を授与する。

・基礎化学プログラム

基礎化学プログラムでは、学士課程における基礎教育を基盤とし、主に分子を対象とした、自然の諸現象の普遍的な法則や基本原理の解明に関する研究活動を通じて課題探究能力及び問題解決能力を高め、基礎化学に関する専門知識と実験技術を有し、

自然科学における「化学」の役割を理解しながら幅広い視野に基づいて未知なる事象を解明することを可能にする総合的判断力を獲得し資質を涵養した者に修士（理学）の学位を授与する。

・応用化学プログラム

応用化学プログラムでは、我が国の産業界の中核を担う化学技術者・研究者を養成する。応用化学は人間社会の持続可能な発展に必要不可欠であり、本プログラムは工学部応用化学科における専門教育との一貫性を重視し応用化学の体系的な教育を行う。その教育内容には、新規機能性材料の創製、先端的分析技術の開発、先進的物質循環制御系の構築などの様々な工学的創造に必須となる広範な知識と技能の全てが含まれる。本プログラムは、所定の単位数を修得し、応用化学を基盤とした論理的思考により製品開発や社会問題解決に実践的に貢献する能力を獲得し資質を涵養した者に修士（工学）の学位を授与する。

数理電子情報専攻

本専攻は、数学プログラム、電気電子物理工学プログラム、情報工学プログラムの3つのプログラムで構成されている。専攻として修了後に数理電子情報部門において、教育・研究・技術開発に活躍しうる人材を育てるためのカリキュラムを設計している。それらは独立しつつも、専攻共通科目を通じて有機的に結びついており、それにより、隣接する分野における学術的な関連性を学ぶ。一方で、それぞれのプログラム以外から履修できる科目数を制限し、各プログラムからの履修単位数を24以上とすることで高い専門性を担保する。以上のカリキュラムにより、それぞれのプログラムにおける高度な専門性と、隣接する関連分野の幅広い見識を修得し、社会の諸分野の発展に寄与する能力を涵養した者に修士（理学）又は修士（工学）を授与する。

各プログラムのディプロマ・ポリシーは以下のとおりである。

・数学プログラム

数学プログラムでは、学部教育で修得した基礎学力、論理的思考力、応用力を伸ばし、専門性の高い数学的知識を修得することを第一の目的とする。第二の目的は、最先端の研究に寄与できる能力の獲得である。更に、課程修了後に教育及び社会の諸分野で活躍できる資質、または、博士後期課程に進学し研究者を目指す資質を養う事が最終目的である。以上の能力を獲得し資質を涵養した者に修士（理学）の学位を授与する。

・電気電子物理工学プログラム

電気電子物理工学プログラムでは、所定の教育課程を修め、研究活動を通して、電気・電子・光・情報通信・材料デバイス技術分野における最先端の知見を含む専門知識と論理的思考能力、技術者・研究者として社会性、コミュニケーション能力を獲得し資質を涵養した者に修士（工学）の学位を授与する。

・情報工学プログラム

情報工学プログラムでは、情報工学に関する幅広く豊かな識見、コミュニケーション能力、情報技術者としての社会的責任を自覚しかつ指導的役割を果たす能力、そして、情報工学に関わる研究分野での高度な知識と能力を獲得し資質を涵養した者に修士（工学）の学位を授与する。

機械科学専攻

・機械科学プログラム

機械工学分野は工学の基軸をなしており、他の工学分野とも有機的に結びつき、共に進展することが求められている。そのため、本プログラムでは、生産性の高度化及び高効率化を実現するとともに、人間と機械が共存する豊かな社会基盤を創造するため、工学の中核をなす優れた人材を育成することを目的としている。このような人材育成方針（目的）を鑑み、工学部機械工学・システムデザイン学科における教育研究をさらに発展させることにより、以下の能力を獲得し、これらの資質を涵養した者に修士（工学）の学位を授与する。

1. 機械工学に関するさらなる教育及び研究活動をとおして、先端的な専門知識の獲得ができており、職業倫理を理解することができる。
2. 社会に対して果たすべき役割について認識できており、研究活動をとおして課題を解決することができる。
3. 機械工学分野における技術的な内容に関して、他の工学分野の技術者ともコミュニケーションすることができる。

環境社会基盤専攻

・環境社会基盤国際プログラム

環境社会基盤国際プログラムでは、修了に必要な履修単位数のうち、24以上を本プログラムから履修することで高い専門性を担保する。そのうえで、自然環境の変化を的確に捉え、社会における役割を理解し、長期的かつ国際的な視野を持って課題に対処し、幅広く高機能化する社会基盤の各専門知識を修得し応用できる能力と自らの考えを論理的に表現できる能力を獲得し素養を涵養した者に修士（工学）の学位を授与する。

専攻共通

- ・地球環境における科学技術の応用と融合プログラム（融合教育プログラム）

融合教育プログラムでは、自然資源の持続可能な管理と効率的な利用、国際的な枠組みに従った製品ライフサイクルによる化学物質の管理と大気・水・土壌への放出の削減、再生利用による廃棄物の削減、植物資源の管理・分子育種・栽培技術及び生産システムに関する持続可能な開発、及び自然と調和したライフスタイルに関する情報と意識など SDGs に掲げられている開発目標に密接に関連する世界規模の課題に対して、文理融合教育による講義と個々の専門分野の研究活動を通して高い専門性と幅広い知識を修得、資質を涵養した者に、その研究活動の専門性（履修した特別研究を開講しているプログラム：学生は5専攻のいずれかに所属し、特別研究は専攻ごとに指定する専門教育プログラムの特別研究を履修する）に応じて修士（理学）又は修士（工学）の学位を授与する。

特別教育プログラム（プログラム修了認定基準）

- ・6年一貫型イノベーション人材育成プログラム

各専門教育プログラムにおける高度な専門知識の修得に加えて、現代の解決すべき社会的課題に対して科学的分析と理解及びそれらに基づいた課題解決方法の設計・デザイン、種々の技術の統合・システム化による社会実装までを実現しうる幅広い実践的能力を修得した者にプログラム修了証を授与する。

- ・データサイエンティストとしての素養を備えた理工系人材育成プログラム

各専門教育プログラムにおける高度な専門知識の修得に加えて、膨大なデータから有用な情報を抽出し、さらにデータに内在する本質的構造を見極めて数理的思考に基づいた解析により、新たな価値を生み出すことが可能な実践的能力を修得した者にプログラム修了証を授与する。

- ・6年一貫型ハイグレード理数教育プログラム（HiSEP-6）

各専門教育プログラムにおける高度な専門知識の修得に加えて、理数分野で特に高い研究意欲を有し基礎学力を備えた「研究者の芽」を育てる目的で理学部において実施されている「ハイグレード理数教育プログラム（HiSEP）」において培った基礎学力を土台に、高い専門性と応用力を養い、「研究者の芽」を発芽させる本プログラムを通じて、以下の4点を修得した者にプログラム修了証を授与する。

1. 理学に関わる広い見識と研究面での企画・実施・解析能力の獲得
2. 研究遂行及びに公表に必要な国際性と社会性
3. 研究における特殊性と独創性
4. 研究倫理の遵守

博士後期課程の修了認定・学位授与の方針

博士後期課程においては、所定の教育課程を修め、教育目的に照らして所属するコースごとに求められる能力・資質を獲得し、それぞれの専門領域について、学問上の重要な発見や革新的な学理を構築する研究成果を挙げた者に博士（理学）、科学技術の分野において画期的な進歩となる研究成果を挙げた者に博士（工学）、上記において学際的な研究成果を挙げた者に博士（学術）の学位を授与する。

教育目的

博士後期課程においては、前期課程までに培ってきた基礎から応用にわたる学力をもとに、専門分野の深い知識と洞察力、絶えず自己研鑽を行う能力、基礎分野や関連分野への理解とこれらを柔軟に応用できる能力を磨くことを通して、次のような人材を育成することを教育目的とする。

- (1) 学問の潮流や新しい社会と産業の動向に対応できる広範な知識を有し、学問の新領域又は新技術・新産業を創出することのできる独創性の高い研究者・高級技術者
- (2) 科学技術の急速な進展にも対応できる十分な基礎学力と俯瞰的視野を併せ持つ国際的な活躍のできる社会人研究者・高級技術者や、自国におけるリーダーとして活躍できる外国人研究者・高級技術者

生命科学コース

21世紀は、遺伝子組換え作物、クローン生物、再生医療など、生物学が解決しなければいけない問題をかかえている。これらの社会的課題に応えるため、多様な生命現象に関する、分子、遺伝子、細胞、組織、器官、及び個体レベルでの研究・教育を通して、当該分野における最先端の専門知識に裏付けられた課題設定能力と優れた課題解決能力を有し、基礎生命科学の発展及びその応用に貢献できる独創的な研究者となる資質を涵養し、分子生物学もしくは生体制御学の分野で、学問上の重要な発見や革新的な学理を構築する研究成果を挙げた者に博士（理学）、あるいは、学際的な研究成果を挙げた者に博士（学術）の学位を授与する。

物質科学コース

素粒子から巨視的物質にいたるあらゆる階層の物質系における構造・相互作用・機能・反応に関する科学と科学技術、及びその工学的応用に関わる理論的・実験的研究に基づいた最先端の研究・教育を通して、物理学及び化学とその周辺について広い視野をもち、社会的責任を自覚し、自ら基盤的あるいは学際的な研究計画を提起してそれを解決する能力と国際社会で活躍できる力を備え、新しい科学技術の発展に貢献しうる研究者・高度技術者となる資質を涵養し、物理学もしくは基礎化学の分野で学問

上の重要な発見や革新的な学理を構築する研究成果を挙げた者に博士（理学）、応用化学の分野で科学技術の画期的な進歩となる研究成果を挙げた者に博士（工学）、あるいは、上記において学際的な研究成果を挙げた者に博士（学術）の学位を授与する。

数理電子情報コース

数理電子情報分野における理論・ハードウェア・ソフトウェアなどの専門的知識や能力を踏まえ、それらをさらに極めるとともに、社会的要請も踏まえた幅広い視野をもって各分野の技術を有機的に結合して独創性の高い最先端研究の設定と遂行できる能力を有し、世界的にも学界や産業界を主導していける優れた指導力を持つ研究者となる資質を涵養し、数学の分野で学問上の重要な発見や革新的な学理を構築する研究成果を挙げた者に博士（理学）、電気電子物理工学もしくは情報工学の分野で科学技術の画期的な進歩となる研究成果を挙げた者に博士（工学）、あるいは、上記において学際的な研究成果を挙げた者に博士（学術）の学位を授与する。

人間支援・生産科学コース

生産科学技術及び人間支援技術を核として、新たな機能を持つ人間親和型生産機械や人間支援機械システムなど、福祉や国際化産業社会の要請に基づく新機能システムを創成する課題設定・解決能力を有し、さらにこれらの技術分野を世界的に主導していける研究者及び高級技術者となる資質を涵養し、機械科学の分野で科学技術の画期的な進歩となる研究成果を挙げた者に博士（工学）、あるいは、学際的な研究成果を挙げた者に博士（学術）の学位を授与する。

環境科学・社会基盤コース

自然環境や社会環境に対する人為の影響を解明し、持続可能な環境を構築する方法、すなわち、様々な環境問題や社会基盤整備に関する諸問題を地球的視野と歴史的視野から自らの課題として認識し、現象のメカニズムを現代科学技術のあらゆる側面から多面的に解明するとともに、人間社会が自然生態系と共存しながら持続可能性を高めていくための有効な解決策をシステムとして構築することができる優秀な研究者となる資質を涵養し、環境社会基盤の学問分野において、科学技術の画期的な進歩となる研究成果を挙げた者に博士（工学）、あるいは、学際的な研究成果を挙げた者に博士（学術）の学位を授与する。

連携先端研究コース

・ 粒子宇宙科学領域

理化学研究所との連携により、本学における重イオン加速器から発生する粒子等を用いた最先端の実験的研究と、理研における粒子検出器・宇宙線測定装置の開発研究を通して、わが国における原子核/宇宙線物理及びその周辺領域で中核的役割を担う研究者となる資質を涵養し、学問上の重要な発見や革新的な学理を構築する研究成果を挙げた者に博士（理学）、あるいは、学際的な研究成果を挙げた者に博士（学術）の学位を授与する。

・融合電子技術領域

産業技術総合研究所との連携により、本学におけるパワーエレクトロニクスの基幹デバイスに関する研究と産業技術総合研究所における能動素子開発や電子システムインテグレーションに関する研究とを融合した最先端の研究分野に関連した教育・研究を通して、当該分野の中核的役割を担う研究者となる資質を涵養し、科学技術の分野において画期的な進歩となる研究成果を挙げた者に博士（工学）、あるいは、学際的な研究成果を挙げた者に博士（学術）の学位を授与する。

・脳科学領域

理化学研究所脳科学総合研究センターと連携した脳科学の最先端の教育・研究を通して、脳科学に重点を置く生命科学及びその関連分野において基礎から応用まで柔軟に対応できる能力を有し、これらの分野の研究の中核を担いつつ国際的に活躍できる研究者となる資質を涵養し、学問上の重要な発見や革新的な学理を構築する研究成果を挙げた者に博士（理学）、あるいは、学際的な研究成果を挙げた者に博士（学術）の学位を授与する。

iii. 各部署のディプロマ・ポリシーから抽出した一般性のある目標

- (1) 論理的、批判的思考力
- (2) 根拠に基づいた分析力（情報収集力含む）
- (3) みずからの主張や意見を形成し発信する能力
- (4) 他者との共生の基盤となる、みずからの社会的な責任の自覚
- (5) 知識・スキルを他領域に敷衍・応用する力

4. シラバスの組織的な点検

(1) シラバスの点検組織

シラバスの点検は、授業科目を自ら開設する学部等で組織的に行ってください。

学士課程	担当部局
教養・スキル・リテラシー科目	教育機構
初年次科目	経済学部
専門科目	各学部
大学院	各研究科

(2) シラバスの点検内容

シラバスの点検は、シラバスチェックリストにより以下の観点に沿って行ってください。

- ① シラバスのすべての項目が記載されているか。
- ② 「3. シラバス作成の注意事項」を反映した記載がされているか。
- ③ 学生にとってわかりやすく、当該授業科目の学修活動がイメージできるものとなっているか。

(3) シラバスの修正依頼

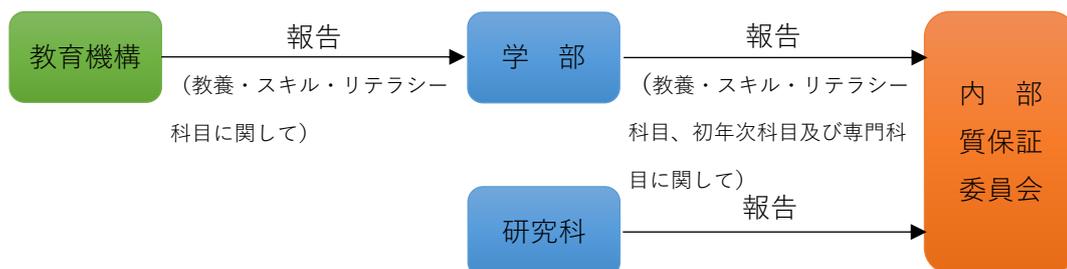
シラバスの点検組織は、点検を行った結果、記載が不十分・不適切なものについて、当該シラバスの作成者である授業担当教員に点検結果を報告するとともに、シラバス公開に支障が生じないよう適切な期限を定めて、修正を依頼してください。

5. シラバスの修正

授業担当教員は、シラバスの点検組織の報告及び依頼に基づき、シラバス公開に支障が生じないよう設定された期限を厳守して、当該シラバスを修正してください。

6. シラバスの入力状況の報告

国立大学法人埼玉大学における教育の内部質保証に係る授業科目に関する自己点検・評価実施細則により、シラバスの入力状況（点検結果及び修正の状況）について、教育機構は各学部へ報告し、学部・研究科は内部質保証委員会へ報告してください。



7. シラバスの改善

シラバスの点検組織及び授業担当教員は、シラバスの改善に際して、授業評価アンケートにおけるシラバスに関する質問項目の学生からの回答結果を活用してください。

授業評価アンケート

- ・ 授業の到達目標・全体構成が、シラバスから理解できましたか。
- ・ シラバスに記載された事前準備・事後展開学修についての指示・解説は適切でしたか。

シラバスチェックリスト

No	項目	内容
①	クラス指定	記入されているか。指定がない場合「なし」「特に無し」と記入されているか。
②	他との関連（関連項目）	記入されているか。該当なしの場合でも場合「なし」「特に無し」等と記入されているか。
③	履修条件（授業に必要な既修得科目または前提知識）【特に重要】	記入されているか。該当なしの場合でも場合「なし」「特に無し」等と記入されているか。
④	テーマ・副題	記入されているか。
⑤	授業科目の到達目標【特に重要】	記入されているか。
⑥	『ディプロマ・ポリシー』を含む学部・研究科。学科等の学修・教育目標との関連【特に重要】	記入されているか。
⑦	授業キーワード	記入されているか。
⑧	授業の内容	記入されているか。
⑨	授業の方法【特に重要】	記入されているか。
⑩	事前準備学修・事後展開学修【特に重要】	授業1回あたりに必要な事前事後学修の時間数、具体的な学修内容が記入されているか。
⑪	授業展開（スケジュール）【特に重要】	各回に内容が記入されているか。 単位数に必要な授業回数を満たしているか（1単位なら8回以上、2単位なら15回以上、ただし、最終回が期末試験の場合でないこと、授業に必要な授業回数を満たしているか。2単位で15回目まで授業、16回目で期末試験は適切だが、15回目が期末試験になっているものは不適切）。
⑫	授業の詳細	—（自動記入のためチェック不要）
⑬	成績評価の方法と観点【特に重要】	成績評価の方法と、その割合が記入されているか。 割合が合計で100%となっているか。 出席数それ自体（出席の有無）を点数化していないか。
⑭	成績評価基準【特に重要】	—（自動記入のためチェック不要）
⑮	テキスト及び参考図書	記入されているか。
⑯	学生へのメッセージ	記入されているか。
⑰	人数制限	記入されているか。該当なしの場合でも場合「なし」「特に無し」等と記入されているか。
⑱	連絡先（電話番号、メールアドレス、ホームページ、その他）	記入されているか。
⑲	オフィスアワー【特に重要】	記入されているか。
⑳	関連ホームページ	記入されているか。該当なしの場合でも場合「なし」「特に無し」等と記入されているか。
㉑	その他・備考	記入されているか。該当なしの場合でも場合「なし」「特に無し」等と記入されているか。